

2020. 10. 16



気候変動適応戦略イニシアティブ
統合的気候モデル高度化研究プログラム
概略説明

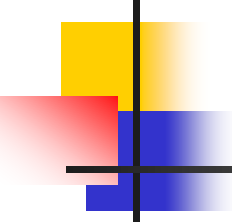
プログラム ディレクター
東京大学未来ビジョン研究センター
特任教授 住 明正



「本当に気候が変わってきた！」

- 今年も、様々な災害が発生
- 7月の球磨川の水害
- 8月の猛暑
- アメリカ
- 西海岸での
- 森林火災

このような変化に対して備える 必要



- 国際的には、
 - パリ協定のもと、排出削減に努める
 - IPCCなどへの貢献
- 国内的には、
 - 適応政策の実施
 - 緩和と適応の統合
- 気候モデルの信頼度向上
- 影響評価、適切な適応策の設定
- 2017－2021年度(5年間)



4つのプロジェクト

■ A. 全球規模の気候変動予測

- すべての気候変動対策の基礎となる全球予測モデルの構築

■ B. 炭素循環・気候感度の解明

- 緩和策検討の基礎となる気候感度の解明

■ C. 統合的気候変動予測

- 国内や東南アジアの適応策検討の基礎となるモデルの構築

■ D. 統合的ハザード予測

- 温暖化による自然災害等のリスク・影響の評価

統合的気候モデル高度化研究プログラムの実施体制

統合的気候モデル高度化研究プログラム



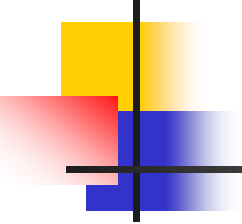
気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第1作業部会に関する国内外の研究動向の調査等 (毎年、一般競争入札を実施)

担当: 日本気象協会



各課題連携を追求

- データセットの作成、あるいは、配布、あるいは、社会へのデータの還元
- Event Attribution (A,C)
- 地域的な気候変動影響評価 (C,D)
- 地球システムモデル (A,B)
- 2020年度から、Si-CATで行われた研究の一部を取り込む

- 
-
- 本日の講演をお楽しみ下さればと思います。
 - ご清聴ありがとうございました。